

〈家庭科〉 5年

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・手縫いやミシンの使い方など、基礎的な技能を習得しようとしている。
- ・裁縫に必要な用具の安全な扱い方、簡単な手縫いの仕方について理解している。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・手縫いで作品づくりでは、自分なりの工夫を凝らし取り組んでいる。また、友達と相談しながら、友達の考えも取り入れている。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・初めての教科で大変意欲的に取り組んでいる。「家族に作ってあげたい」など、裁縫実習は特に興味を示す児童が多い。
- ・裁縫など、できることが増えていくのが「うれしい」といった姿勢で学習に臨んでいる一方、失敗すると苦手意識をもってしまう児童もいる。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・基礎基本的な技能が定着するように、繰り返し実習を行い、家庭でも取り組むようにして、児童が経験する場を増やしていく。
- ・裁縫に慣れていない児童でも、用具の扱い方を理解できる工夫が必要である。
- ・児童によって理解の仕方がさまざまである。着実に学力の定着度がわかるためにも、必要に応じて、テストを行い、理解度を確認していくことが必要である。理解できていない部分への手立てが課題である。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・生活経験の乏しい児童の中には、実生活と結びつけて考えることが難しい場面もあった。自分の生活に生かすことができるように、家庭との連携を図っていく必要がある。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・家庭科で学習した裁縫に関して、家庭でも実践しようと児童が多い。裁縫以外においても、学習したことを家庭で家族と一緒に実践したくなるような活動をより増やしていく。
- ・エコについての学習はしているが、手縫いで使う糸の長さなど、より環境に配慮し、意識して節約できるようにすることが課題である。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・ICT教材を活用し、視覚的に活動内容を理解できるようにする。
- ・児童同士の教え合いをする声かけを行うことで、基礎的な技能を習得できるようにする。
- ・技能評価のポイントを児童に伝え、技能向上させていく。
- ・どの程度理解しているかを知るために、必要に応じてまとめのテストを実施する。
- ・発表の機会を増やして、自分の考えをまとめ、自分の言葉で説明できるようにする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・児童の経験には差があり、初めて学習する児童と家庭でやっている児童それぞれに自分なりに課題を決めて、ものづくりに取り組ませる。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・学校での学習が、家庭生活の中で生かせるようにするために、家庭との連携をはかる工夫をする。
- ・「実践カード」を作り、それを評価するなど、家庭実践させるための手立てを工夫する。
- ・環境に配慮した資料を教室内に掲示し、無駄使いをしないように、実習の時間は声かけをする。意識して節約を心がけている児童を紹介する。

